

4. イエメン共和国

1) 政治・経済・民生の動向

(1) 概 観

表1 イエメンの主要データ

項 目	内 容
面 積	積：52万8,000km ² （日本の1.4倍）
資 源	源：石油、岩塩
総 人 口	口：1,128万人（1990年）
首 都	都：サヌア(San'a)、人口50万人(90年)
主 要 都 市	市：アデン(41万人), タイズ(17万人), ホデイダ（15万人）
人 種	種：アラビア人、部族間の宗教や言語は同じ（主要9部族）
言 語	語：アラビア語
宗 教	教：イスラム教、北部にシーア派系ザイド派、南部にスンニー派系 シャーフイー派
政 治 体 制	制：共和制、大統領が最高権力者
憲 法	法：1990年5月に制定
元 首	首：大統領、アリ・アブドラ・サレハ（Ali Abdulah SALEH）、90年 5月就任
議 会	会：統一議会、定員301名
主 要 政 党	党：イエメン社会党、民主統一党など
国 民 総 生 産	産：53億ドル(90年推定) // /人：545ドル(同)（日本の1.8%）
通 貨	貨：リヤル(Riyal)、1ドル=11.98リヤル(91年12月)

Source: World year book, 1992

(2) 位置・地勢

①位置：イエメン共和国は、アラビア半島南西部から南端の海岸沿いに位置し、北はサウジアラビアに接し、南はアラビア海とインド洋に、東はオマーン、西は紅海に面している。また、アラビア海に浮かぶソコトラ島等が属する。

②地勢：

(イ) 旧イエメン・アラブ共和国（北イエメン）

国土を南北に標高1,500m以上の中央山脈が走り、その西側は紅海沿いの平野まで急な傾斜地をなし、東側は東に向かって下る緩やかな傾斜地となっている。地勢的に4つの地域に区分される。

i) 中央高原地帯：中央山脈を中心とした高原地帯、最高峰はアラビア半島で最も高い4,111域に区分される。

担当：岡 三徳

- 2mのジャバル・ハズールである。首都サナアはこの地帯に位置し、標高2,300mである。
- ii) 紅海沿い平坦地：別名テイハマ平原と呼ばれ幅30-60km、標高200m以下の平坦地
 - iii) テイハマ平原と中央高原間の丘陵地帯：標高200-1,500mの丘陵地帯であり、急峻な岩山とワディが多く、起伏が激しい。
 - iv) 東部半砂漠高原地帯：中央高原地帯から東部のルブウ・アル・ハーリー大砂漠に続く緩やかな傾斜地帯が約標高1,000mまで広がる。この地帯は比較的水に恵まれたワディがある。
- (α) 旧イエメン民主人民共和国（南イエメン）
- この地域は火山地帯であったことから海岸線には溶岩が多く、遠浅の海岸には珊瑚礁が見られる。地形的には紅海に近い西方が高く、東方に向かって傾斜しており4地域に大別される。
- i) 西部山岳地域：紅海に沿ってサウジアラビアおよび北イエメンから走る山脈の南端に当り、標高2,500-3,000mに達する高峰を含む。
 - ii) 沿岸平野部：首都アデンを含むアデン湾沿いの平野部
 - iii) 北砂漠地域：サウジアラビアのルブウ・アル・ハーリーの延長である。
 - iv) 南部高原地帯：沿岸平野地域と北部砂漠地域との間に位置し、数本のワディが高原を切り込んでいる。

(3) 気 候

- ①北イエメン：気候は地形と密接な関係にあり、温帯から熱帯までに変化がある。中央高原地帯は雨量が多く、北イエメンはアラビア半島で最も雨量の多い地域である。
- (イ) テイハマ平原：熱帯、年平均温度32℃、年較差20-50℃、年平均雨量は100mm程度
 - (α) 丘陵地帯：熱帯および亜熱帯、年平均24℃、年降雨量300-1,200mm
 - (ハ) 中央高原地帯：温帯、夏は涼しく冬温和で低湿、多雨（地域では2,000mm）
 - (ニ) 東部地域：亜熱帯、年平均23℃、降雨量60-200mm
- ②南イエメン：高温・多湿の砂漠性気候で、年平均気温は30℃前後である。
- (イ) 西部山岳地帯：夏；季節風による多雨、降雨量200-300mm、気温：夏15-35℃；冬5-25℃
 - (α) 沿岸平野地域：年降雨量40-70mm、気温：夏26-37℃；冬20-29℃
 - (ハ) 北部砂漠地域：夏雨地域、気温：夏24-43℃；冬10-29℃
 - (ニ) 南部高原地域：年間降雨量約30mm、気温：夏24-38℃；冬15-30℃

表2 主要都市の気候

都 市	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年合計
サナア（北イエメン中央高原地帯：1975）：													
気温	13.4	15.0	15.2	17.5	18.6	14.3	19.8	18.8	17.3	12.7	13.6	13.4	15.8
雨量	0	0	35.7	102.1	4.2	6.3	44.7	162.5	22.7	0	0	6.5	385
アデン（南イエメン沿岸平野部）：													
気温	25.4	25.7	26.9	28.6	30.6	32.8	32.0	31.4	31.7	28.7	26.7	25.8	28.9
雨量	10.4	3.7	8.3	0.5	2.3	0	2.5	1.9	7.3	0.2	5.6	5.8	47.5

Source: 理科年表、世界各国便覧叢書（中近東編、日本国際問題研究所）

(4) 略 史

- BC10-2世紀 シバ王国が繁栄
- 6世紀 エチオピアの侵略
- 7世紀以降 イスラムの時代
- 1839年 東西貿易中継港として栄えたアデン、英国割譲
オスマントルコ支配下の北イエメンと英国支配下の南イエメンの勢力範囲が確立
- 1918年 北イエメン王国成立、62年共和制へ移行
- 1967年 南イエメン人民共和国が英国から独立、新ソ路線
- 1986年 南イエメン大統領と反乱軍の内戦後、アッタス大統領就任
- 1988年 南北関係の改善に向い、89年11月統一に関する憲法草案に調印
- 1990年 5月22日南北統一イエメンの樹立

<イエメン統合>1989年11月にアデンで開催された南北イエメン首脳会談が統一草案の内容に合意して以降、両国の統合作業が加速して進んだ。

イエメン統合の動きの背景には、第1にソ連型計画経済の失敗による経済破綻で南イエメンがソ連離れをの動きを見せ始めたことである。第2にイエメン統合に消極的であったサウジアラビアがアラビア半島南部におけるソ連の影響力の排除とアラブ内での孤立化を避ける狙いから統合を支持するといった姿勢をみせたことである。

サウジアラビアの支持とソ連の沈黙により、統合に向けた障害はなくなった。しかし、内政面では複数政党制を導入するかどうかといった問題、外交面ではサウジアラビア、オマーンなどのGCC諸国との関係悪化の不安など統合に残された問題は多く、統合後の政治、経済の混乱は避けられていない。

(5) 政 治

- ①元首：大統領、直接選挙制、92年秋に統一後初の大統領選挙
- ②議会：1院制、直接選挙
- ③内閣：大統領が任免、現内閣は90年5月に発足
- ④主義：イスラム教を国教とし、経済社会開発と民主主義を基本政策に掲げ、経済的には自由主義路線をとる。
- ⑤最近の政情：
 - (イ)統一憲法の国民投票が91年5月に行われ、圧倒的多数で承認された。公式発表によると有権者約400万人のうち189万人が登録、賛成134万人、反対2万人であった。野党グループは新憲法がイスラム法に違反しているとして、国民投票に反対していた。
 - (ロ)新国家の最大の課題は、経済問題で貧困、物価高騰、失業問題に直面する南イエメンを中心として、公務員に対する手当未支払いや労働組合ストライキ等の混乱が生じた。

(6) 外 交

中立、イスラム世界との連帯強化を基本に穏健な路線をとる。湾岸危機に際し、イエメンはイラクのクウェート侵攻・併合反対、外国軍の進駐反対、アラブ枠内における平和的解決の3点を基本的立場としたが、その立場は鮮明にイラク寄りであるとの評価を受けることとなった。

<対サウジ関係の悪化>イエメンはサウジアラビアとは従来から微妙な関係にあったが、サウジアラビアは南北統合による強大なイエメンの出現により国境地方の領土返還を強く要求することへの警戒や湾岸危機に際してのイエメンの政策に反発している。湾岸危機を契機として悪化したサウジアラビアを初めとする湾岸諸国および米国との関係修復は、イエメンにとって危機・戦争後最大の外交的課題と言える。

<日本との関係>親国家成立に伴い90年5月外交関係樹立、89年の対日輸出はコーヒー、石油など1億3,500万ドル、輸入は鉄鋼、自動車など9,200万ドル

日本から90年3月、上野の森プラスアンサンプルがイエメン講演を行い、前年の津軽三味線公演同様、好評を博した。イエメンからは、90年4月より半年間にわたり「国際花と緑の博覧会」に出展があった

90年4月、日本からの無償資金協力・技術全般を協議するための調査団が派遣され経済協力は順調に進捗した。湾岸戦争に伴い日本大使公邸への爆弾テロ事件などもあり、JICA専門家は一時退避したがその後帰任している。91年4月以降、青年海外協力隊の調整員および隊員第一陣も派遣されている。

新聞報道：

朝日 (92.1.30) 「イエメンの油田開発取得 出光石油興産」

出光興産系の石油会社、出光石油開発は29日英国の開発会社とともに、アラビア半島先端のイエメン内陸部にある原油鉱区での探鉱・開発について同国と同意。日本の石油会社としては、91年に昭和シェル石油が石油鉱区利権を取得している。

朝日 (92.9.30) 「サウジ、イエメンが国境めぐる紛争の協議」

両国国境地帯は油田が発見されるまでは単なる砂漠で、国境線が未確定であった。イエメンがこの国境地帯での油田開発に力を入れてきたのに対し、サウジはこの春から再三にわたり、「係争中の国境地帯」での油田探査、掘削をしている外国企業に警告を出してきた。

朝日 (92.12.13) 「イエメンのデモ、死者11人」

経済状況悪化に抗議する民衆デモが9日、南部のダイスから発生し、11日には首都サヌアに波及、12日同国治安部隊が出動した。同国は湾岸戦争の間、親イラクの立場をとり、サウジアラビアからの出稼ぎ労働者の追放などで、経済が悪化している。

(7) 経 済

南北統合に加え、湾岸危機でサウジからの大量帰還民を抱え、イエメン経済は深刻な難関に直面している。90年9月、政府はイラク・クウェートからのアデン製油所での原油委託精製停止、両国からの経済停止、湾岸諸国への出稼ぎ労働者からの送金激減など湾岸危機による経済的損失は総額17億ドルと発表し、国連に救済を求めた。

①統合前GDP実質成長率：北イエメン；19.2% (1988)、南イエメン；0.3%

表3 統合前の産業別GDP構成比(1987年)

北イエメン		南イエメン	
第1次産業	28.1	農漁業	15.7
鉱業	1.6	工業	11.3
製造業	11.1	建設	11.1
電気・水	1.2	貿易ホテル飲食	12.7
建設業	3.3	運輸・通信	11.1
商業	12.0	金融・保険	4.9
輸送・通信	11.0	商業	0.9
その他民間サービス業	12.2	政府	32.2
政府サービス	12.3		
輸入税	7.3		
GDP (製造者価格) 100(%)		GDP (卸売価格) 100(%)	

Source: イエメン中央計画機構、中央銀行

②貿易

表4 統合前の北イエメン主要輸出入品目 (1987年)

(単位100万Yリヤル)

輸 出		輸 入	
食糧・家畜	176.3(35.7)	飲料・家畜	2,896.3(31.6)
原油	175.4(35.5)	工業製品	2,622.4(28.6)
原材料	69.4(14.1)	機械・輸送機器	2,014.0(21.9)
飲料・タバコ	54.0(11.0)	化学製品	845.2(9.2)
工業製品	17.0(3.4)	原材料	630.8(6.9)
化学製品	1.4(0.3)	飲料・タバコ	256.1(2.8)
		動・植物油	195.8(2.1)
計	493.5(100)	計	9,176.1(100)

Source: イエメン中央銀行

北イエメンにおける主要貿易相手国:

輸出: 西独、韓国、米国、日本、輸入: サウジ、オランダ、西独、米国

表5 統合前の南イエメンの主要輸入品目 (1987年)

(単位100万Yディナール)

食糧・家畜	42.6
機械・輸送機器	41.1
鉱物資源	33.6
工業製品	29.0
その他	23.4
計	167.9

注) 輸出 (1987) については、総輸出額2,290万YDのうち

1,180万YDが石油部門(51.5%)、source: EIU

北イエメンにおける主要貿易相手国:

輸出: 西独、伊国、北イタリヤ、米国、輸入: 中国、英国、日本、デンマーク

表6 南北イエメン対比表

項目	北イエメン	南イエメン
面積	19.5	33.3 万ha
人口 (1988)	874.2	233.9 万人
人口増加率(80-88)	2.7	2.9 %
文盲率	86	59 %
平均寿命	46	51 才
GNP (1988)	57	10 億ドル
GNP成長率	5.5	-3.2 %
GNP/人 (86-88)	650	430 ドル
〃 生長率 (86-88)	7.0	0.6 %
インフレ率 (80-87)	11	5 %
農業 (対GNP、88)	25	16 %
外国からのODA総額	34,900	8,000 ドル
〃 (対GNP比)	8	8 %

Source: World Bank Atlas 1989

(8) 民生

- ①北イエメン: イエメン人は古代に栄えた王国の子孫であるためか、自分達こそアラブの先祖であり、源流であると思っている誇り高い部族である。しかし、生活は貧しく、教育も受けられない人が多い。
- ②南イエメン: 社会の特徴として、スンニー派のイスラム信仰に基づく厳しい階級・身分差別が存在する。首都アデンには、アラブ人のほかにインド人、中国人、ソマリア人等が多い。

(9) 資料、文献検索結果

- ①AICAF文献検索: 18件 (農業情勢報告を含む)
JICA、FAO等の農業調査・研修に関する報告6件
- ②朝日新聞記事データベース/G-Search: 23件 (1991-92)

2) 農林業情報分析

(1) 土地利用

表7 土地利用 (1,000ha)

Land Use	1975	1980	1985	1990
Total Area	52,795	52,795	52,795	52,795
Land Area	52,795	52,795	52,795	52,795
Arable & Perm. Crops	1,460	1,463	1,529	1,609
Arable Land	1,363	1,366	1,431	1,504
Perm. Crops	97	97	98	105
Permanent Pasture	16,065	16,065	16,065	16,065
Forest & Wood Land	4,060	4,060	4,060	4,060
Other Land	31,212	31,209	31,143	31,063

Source: Production Year Book FAO 1991

(2) 農業人口

表8 農業人口 (1,000人)

項 目	1975	1980	1985	1990
合 計 人 口	6,991	8,219	9,758	11,687
農 業 人 口	4,632	5,139	5,792	6,561
経 済 活 動 全 人 口	1,571	1,886	2,292	2,975
農 業 人 口	1,022	1,161	1,344	1,554
比 率	65.1	61.6	58.6	55.6

Source: Production Year Book FAO 1991

表9 食糧及び畜産物生産指数 (1979-89=100)

	1980	1985	1990	1991
食糧生産指数	105.4	92.3	106.4	98.4
畜産物生産指数	99.7	116.0	129.9	131.6
1人当り食糧生産指数	105.2	77.6	74.7	66.7
" 作物生産指数	109.3	61.2	66.2	47.5
" 穀物生産指数	99.9	48.1	57.6	19.7
" 畜産物生産指数	99.7	97.7	91.3	89.3

Source: Production Year Book FAO 1991

(3) 農業生産

表10 作物及び畜産物の生産 (1,000Mt)

項目	1979-81	1988	1989	1990	1991
穀物 (Mt)	914	853	884	779	-
小麦	87	143	156	141	-
粗粒穀物	826	-	701	612	220
大麦	49	-	59	55	22
トウモロコシ	64	-	68	66	46
ミレット	96	-	59	50	20
ソルガム	616	-	516	441	132
地下作物	133	-	140	160	168
豆類	80	-	72	76	53
野菜 (含メロン)	335	-	615	568	574
トマト	45	-	163	168	170
キュウリ	3	-	15	15	15
スイカ	60	-	204	174	170
果樹	173	-	313	314	317
ブドウ	56	-	135	142	145
ナツメヤシ	10	-	10	10	11
コーヒー	4	-	7	7	8
牛 (x1,000,頭数)	973	-	1,170	1,175	1,180
乳牛	337	-	387	389	393
らくだ	158	-	170	175	180
羊	3,002	-	3,720	3,756	3,800
山羊	2,855	-	3,260	3,333	3,400
鶏 (100万羽)	6	-	27	25	24

Source: Production Year Book FAO 1991

(4) 農産物の輸出入

表11 農産物の輸出入額 (10万\$)

項目	輸 入			輸 出		
	1986	1988	1990	1986	1988	1990
産業全体	16,320	19,800	20,210	4,091	5,292	8,070
農業全体	5,783	6,715	8,377	222	619	576
比 率	35.4	33.9	41.4	5.4	11.7	7.1

Source: Trade Year Book FAO 1990

(5) 文献・資料検索

- ① C A B 文献検索：156件 (1982以降)
- ② TROSIS (熟研スライド情報システム)：0件
- ③ TRODIS (熟研文献情報システム)：0件
- ④ TROPIS (熟研印刷物情報システム)：0件
- ⑤ 入手した農業関係文献・資料：

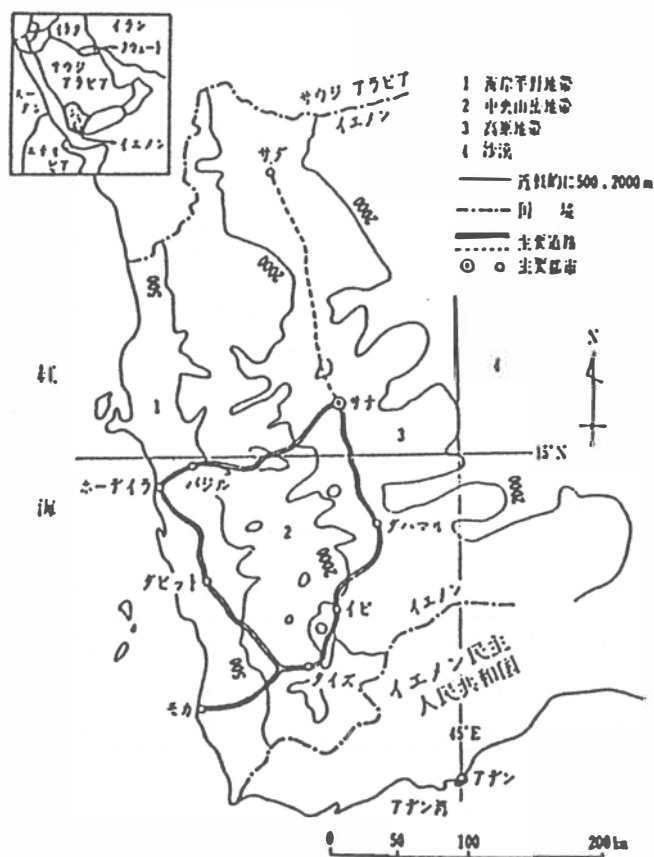
(1) 坂井健吉：アラブ・イエメン、野菜・畑作技術事典、農林水産技術会議、113-116、1975。

3) 農林業技術動向 (北イエメン)

(1) 農業地域区分

- ① 中央高原地帯(2)：穀類 (ソルガム、トウモロコシ)、コーヒー、カト、果樹 (バナナ)、野菜
- ② 紅海沿い平坦地(1)：ワタ、トウモロコシ、タバコ、ゴマ、オリーブ
- ③ ティハマ平原と中央高原間の丘陵地帯(2)：小麦(?)、ソルガム、トウモロコシ、野菜(?)
- ④ 東部半砂漠高原地帯(3)：穀類 (小麦、大麦)、コーヒー、果樹 (ブドウ)、アルファルファ
- ⑤ 西部砂漠地帯(4)：不毛地

() 内の数字は、第2図の地域区分を示す。



第2図 北イエメンの地形

(2) 作物生産の現状（北イエメン、1970年前後）

- ① ソルガム（全生産の97%）、小麦、大麦、トウモロコシ
- ② ズラ、ズッカム（ソルガム品種群）：山岳部、生育旺盛、安定性、耐干性を兼備
- ③ 小麦、大麦：高原部、品種劣悪
- ④ トウモロコシ：オアシスや灌漑地域
- ⑤ ワタ：灌漑可能な海岸平野部
- ⑥ コーヒー：山岳部、アラビカ種

(3) 今後の方向（北イエメン、1970年前後）

- ① 食糧確保：輸出農産物の振興、最大の課題（水）
- ② 作物の品種改良：耐干性、熟期改良（早生）、種子生産
- ③ 栽培技術：栽培基準の確立と普及、技術者養成

(4) 研究・普及組織の1975年当時の現状：

外国援助の実験農場：国連、西独、ソ連、東独、中国

4) 国立農業研究機関（NARS）の現況分析

(1) 研究機関

- ① Longman Group UK, 1990. Agri. Res. Centers. : 記載なし
- ② ISNR 1989. ISNR Agri. Res. Indicator Series. :

表 1 2 北イエメンの研究者数

Year	PhD	Msc	Bsc	Subtotal	Expat	Total
1980	0	0	12	12	13	25
1981						
1982						
1983	1	17	25	43	13	56
1984	3	17	37	57	13	70
1985	6	21	37	64	16	80
1986	11	24	30	65	11	76

表 1 3 南イエメンの研究者数

Year	PhD	Msc	Bsc	Subtotal	Expat	Total
1981	0	12	34	46		46
1982						
1983	8	37	25	70		70
1984						
1985	9	43	31	83		83

③The World of Learning 1992 Forty-Second Edition:

(イ)University of Aden:11 faculties, POB 7039, Al-Mansoor, Aden Faculty of Agriculture

(ロ)San'a University:8 faculties, POB 1247, San'a Faculty of Agriculture

(2) C A B 検索による農業関連研究機関

①Agricultural Research Authority(ARA) in Min. of Agri. and Fisheries.

PO Box 5788, Ta'izz, 北イエメン

②Agri. Improvement Center, Dhamar, 北イエメン

③El-Kod Agri. Research Centre, Khormaksar, Aden, 南イエメン

④Veterinary Services Project, PO Box 1287, San'a, 北イエメン

⑤Department of Research and Extension, Min. of Agri. and Agrarian Reform,

PO Box 1161, Aden

5) 国立農業研究機関 (NARS) の現況

C A B 文献検索結果の分析：サウジアラビアやオマーンに比較して農業生産の比重が高い国（大産油国ではない）であるため外国研究援助を受けて、各種の農業研究は進んでいる。例えば、麦、大麦、とうもろこし、ソルガム等の主要穀類に関する導入育種、栽培、栄養生理などの文献が多い。また、畜産に関しても同様である。

6) 国際協力の現況

資料：ISNAR Agricultural Research Indicator Series

(1) 主要国際協力プロジェクト：農業研究システムの強化

①第1プロジェクト：FAO/UNDP Project (1973-78)

②第2プロジェクト：IDA/UNDP Project (1979-84)：このプロジェクトの名称は、Central Agricultural Research Services Projectとも呼称、援助：6.5 million US\$ (5年間)、国家負担：39.3 million YR

③第3プロジェクト：IDA/IFAD/Italy/FAO Project (1983-88)：Agricultural Research Authority(ARA)の再編強化